

おうちで百人一首

ひやくにんいつしゅ

中・高学年向け

〽 百日後にマスターするわたし

ひやくにちご

三日目

〽

今日の一首

能因法師

のういんほうし

上の句

あらしふ

嵐吹く

みむろ

やま

三室の山の

もみぢ葉は

ば

下の句

たった

かわ

龍田の川の

にしき

錦なりけり

歌の意味

たいふう

つよ

かぜ

みむろやま

は

台風の強い風で、三室山に生えてい

もみぢ

は

と

飛ばされ、

龍

る紅葉の葉はすっかり飛ばされ、龍

たかわ

お

田川に落ちていきました。川はきれ

は

う

つ

いな葉で埋め尽くされて、まるで一

たん

おりもの

み

反の織物のように見えます。

四日目の歌は・・・

うた

まめちしき！

かい こえ だ
3回、声に出して

よ
読んでみよう！



奥山に

おくやま

紅葉踏み分け

もみぢふ

わ

鳴く鹿の

な

しか

声聞く時ぞ

こえき

とき

秋は悲しき

あき

かな

おりもの
織物のこと。秋の山が紅葉に彩ら
れた様子の例えとして使われる。
ようす たじ
つか

いと くわ
の糸を加えて織り上げた豪華な

にしき
錦は、赤や黄、茶などに金銀
あか き ちや きんぎん

